

### 3. 近代まで続く観相の世界



- ① 『井上円了 新編 妖怪叢書 3 迷信解』 昭和58年10月国書刊行会 (国文学研究資料館 ム 8-34-3)

大正5年(1916)1月5日に丙馬出版社より刊行された『妖怪叢書第四編 迷信解』の影印復刻本である。これ以前に、明治37年(1904)9月10日哲学館より初版発行された『妖怪叢書第四編 迷信解』がある。本書の中で井上円了は、人の外貌から運不運吉凶を占う「人相」術を、道理に合わないものとして批判している。(この項、高野純子執筆)

- ② 『井上円了 新編 妖怪叢書 4・5』 昭和58年10月国書刊行会 (国文学研究資料館 ム 8-34-4~5)

- ③ 永代節用無尽蔵 / 河辺桑揚、堀源入斎、堀原甫 (国文学研究資料館蔵 マ 3-95-1~2)

『日用の百科全書』ともいえた大雑書は、息長く明治・大正・昭和まで刊行され、一家・一村の智恵袋的存在であった。この種の典籍の存在は、台湾・中国などの東アジア全体に広く確認される。そして、現代でも新聞・雑誌に占いが必須であるように、人相占をはじめとする占いコーナーは欠かせない人気の記事であった。残存する典籍の占いコーナーの部分には、手垢・手ずれの跡が多く確認されている。



『永代節用無尽蔵』

撰者の平沢白翁は江戸時代後期の易学者で大坂の人。嘉永4年(1851)の「人相千百年眼」ほかに「宅方明鑒」「家相千百年眼」などがあるが、本書は、近代に入っても版を重ねた。本書だけに限ったことではないが、臍や尻、性器に至るまで細かな部位にわたる相をわかりやすく説く。

乳を廣潤にして色紅黒ふると富貴聰明乃相と狭細  
 色白きは貧天に廣きは心狭ふり狭小あらは貧  
 狭乳頭大は色黒きは子孫多し小く白きは子育難  
 仰の子聰明ふり俯の子愚賤し知るべし乳の頭方  
 大なるは子貴し又尖り白く或は黄なるは子孫ふり肉  
 ふきは衣食足らば疾りるは子貴し長毛相結ぶは精氣  
 強し乳の間尺二寸に満るは大貴相し仁恵と民  
 施し心廣き亥海の如く國政と執て名と後世よりく  
 臍相傳

能家業と起し小薄ふるは糧ふり辛苦なる事お  
 上尖り下削るは貧賤にして持病有り皮寛くふ  
 ころのどときは長命を乞ふ皮急鼓のおときは必し短  
 命なり  
 腹箕 腹雀 腹乳相傳  
 腹箕きて箕の如き大福相なり六  
 親しむるは富貴なり  
 小腹ふきとつは貧賤の相なり早年に  
 多く孤苦にて友なき病身にして短命也

『人相千百年眼』 卷之三 12ウ〜13才 腹の相(垂れた腹は福相)、乳の相を述べる。

鼠眼 醉眼 車輪眼 無尾魚  
 九く小くしてまじつくと人如是は益心止  
 ぐし一生貧困にてつきと喰を好む  
 魚尾分て下に筋有りて顔骨にたるめハ  
 能く虚言と吐き一生の運蹇滞に男も淫  
 と貪り女の夫を僧徒道士も亦淫荒なり  
 暗の中に黒き黄く筋有り狼心にて  
 不法有りいづれ水難を受  
 魚尾ふき人の薄情有りて一生涯不吉不幸  
 たり心ハ非口も是にて誠實耶もなり

上視 下視 猫眼  
 涙道の下ふれは人に嫉みて孤貧なり  
 悪心深く常は竊盗と好み丑と渡り暗毒  
 と抱き人と欺く中年を待どりて刑なり  
 夏たり厭あをく恐るべし  
 表は慈善を飭り内に奸險を包み高慢に  
 て人と蔑にせ刑道まかす  
 睛黄みりて光りらば此眼乃言令色能く人  
 たり馴れ外情を催し心と乱す短壽乃  
 相なり

『人相千百年眼』 卷之一 16ウ〜17才 目の相を述べる。忍著マンガ『NARUTO』の「写輪眼」は「車輪眼」から来た？